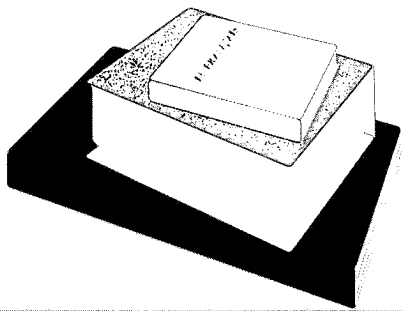


# 差のつく 参考書選び

戸口民也



仕事をするには道具が要るように、外国語を学ぶためには参考書が欠かせません。ただし、学習者のレベルや目的にあった本を選ぶ必要があります。これから紹介する本は限られた例に過ぎませんが、ひとつの目安になれば幸いです。

## 1. 音になじむ / 聞き取り・書き取り

フランス語に限らず、言葉はまず耳で聞いておぼえるのが自然な方法です。よく注意して耳を傾け、繰り返し確認しつつ、自分のものにしていくことです。

はじめてフランス語を学ぶ人にはまずこの本を薦めます。

- 阿南婦美代、エリザベット・ガンブルティエール『コミュニケーションのためのフランス語発音法—発音の規則と練習 (CD 付)』(駿河台出版社、3360円)

CD を聞いてくり返し練習することで、フランス語の発音、リズム、イントネーションになじんでいけるでしょう。

音になじむと同時に、聞き取り・書き取りの訓練をしてください。次のシリーズを推薦します。中級編・上級編のテキストが聞き取れるところまでくれば、仕事に使えるレベルの力が身についたと考えてよいでしょう。仏検対策にも効果的です。

- 阿南婦美代『フランス語の聞きとり練習—入門準備編』(2100円)

- 阿南婦美代『フランス語の聞きとり練習—入門編』(2625円)

- 阿南婦美代『フランス語の書きとり・聞きとり練習—初級編』(2625円)

- 大賀正喜『フランス語の書きとり・聞きとり練習—中級編』(4095円)

- 大賀正喜『フランス語の書きとり・聞きとり練習—上級編』(4200円)

(エディション・フランセーズ、全編 CD 付— 中級編・上級編は CD 2枚)

あるいは、次の組み合わせを選ぶこともできます。

- 明石伸子、ミシェル・サガズ『フランス語書き取りトレーニング』(白水社、2940円)  
初級から中級レベルへ。

- 久松健一『CD 活用フランス語〈拡聴力〉』(駿河台出版社、1890円)  
中級から上級レベルへ。

語彙力、文法読解力、そして教養・知識の裏付けがないと、正確に聞き取ることができません。実は聞き取りが一番難しいのです。だから、つぎの2や3の勉強がどうしても必要になってきます。

## 2. 語彙力をつける

---

単語を知らなければ、聞く・話す・読む・書くのどれもできません。語彙力をつける/どのくらい力がついたかチェックするためには単語集が有効です。たとえば次のように段階をふんでいく方法があります。

- 林田遼右『おぼえるための基本フランス単語 1200』(朝日出版社、945円) — 1200語
- 朝倉季雄『朝倉フランス基本単語集(新装版)』(白水社、1680円) — 2400語
- 荒木昭太郎、井村順一、篠沢秀夫、鈴木康司『スタンダードフランス基本単語 3469』(大修館書店、2835円) — 3469語
- 森本英夫、舟杉真一『フランス文化を理解するための語彙集』(駿河台出版社、2940円) — 5000語

あるいは最初に次の本を使い、その後で上に紹介した5000語レベルに移るという選択肢もあります。

- 田島宏編『コレクションフランス語 8 語彙 (CD付・改訂版)』(白水社、3465円)

索引に上げられている単語は2000語程度ですが、フランス語生成のメカニズムや類義語の説明など、じっくり読むべきところが多いです。

単語を覚えるときには次の点に注意してください。単語には、基本的な意味だけでなく、その意味を拡大した使い方があります。辞書を丁寧に「読む」こと、とくに例文をしっかりと確認しながら、単語の意味の「ひろがり」を確かめる習慣を身につけてください。

## 3. フランス語のしくみを学ぶ

---

とくに初心者には注意してもらいたいのは語順です。どんな言葉にも単語がありますが、単語の並べ方、組み立て方はそれぞれ違います。そのことをしっかりと理解するための第一歩として、まずは語順に注意というわけです。いつまでたっても日本語の語順が抜けきれないようでは、先に進めません。

語順に注意しながら、フランス語のしくみを理解していきましょう。名詞・形容詞の性と数、動詞の変化などのほかに、単語をどう組み立てて文を作るのか、どの単語からどの単語までがひとまとまりの意味グループを作っているのかを知ること(構文把握)がとくに大切です。文法をきっちり勉強し、読む力、書く力を身につけていくとき、はじめて中級・上級へと進む道が開けてきます。

## 【初級文法】

文法の入門書・初級参考書は多数ありますが、ここでは2冊だけ紹介します。

- 石野好一『CD 活用フランス語の入門』（白水社、2520円）

構文把握にポイントを置いた初級文法参考書。CD も大いに活用してください。

- 森本英夫、三野博司『新リュミエール——フランス文法参考書』（駿河台出版社、1995円）

授業の進度にあわせて参照してください。文法の要点が丁寧に説明され、練習問題にも詳しい解説がついています。

## 【文法・中級から上級をめざして】

- 目黒士門『現代フランス広文典』（白水社、3780円）

フランス文法全般を品詞別に詳しく説明しています。

- 新倉俊一ほか『フランス語ハンドブック（改訂版）』（白水社、3675円）

文法・解釈・作文・単語に加え、フランス語の背景的な知識も盛り込まれている総合参考書。文法は構文把握を基本に解説されています。じっくり時間をかけて読んでください。

## 【上級文法】

- 朝倉季雄著・木下光一校閲『新フランス文法事典』（白水社、8190円）

文法事典の決定版。フランス語で専門的な仕事をしようという人は必携です。

## 【読解・仏文和訳】

- 朝比奈誼『フランス語——和訳の技法』（白水社、2940円）

フランス語の文章を正確に読みとって訳すためには、どういった点に注意しなければならないかを具体的に解説しています。仏文和訳から本格的な翻訳へと進みたい人には必読書といえるでしょう。

## 【作文・フランス語の考え方・統辞法】

- 松原秀治、松原秀一『フランス語らしく書く——仏作文の考え方』（白水社、2730円）

前半「仏作文の考え方」は和文仏訳の参考書という体裁を取っていますが、解説が丁寧で、文法の基本をマスターするためにも使えます。後半「フランス語の考え方」は、フランス語的なものの見方や考え方を、単語レベル・構文レベルから具体的に解説したもので、フランス語がどういう言葉かを教えてくれます。

- 大賀正喜『現代仏作文のテクニック』（大修館書店、2100円）

政治、経済、社会など時事問題を扱った文章をフランス語に訳す/フランス語で書く

訓練にはこの本がお薦めです。

- 川本茂雄『フランス語統辞法 (新装版)』(白水社、3990円)
- フランス語の統辞法を学ぶための必読書です。

#### 4. 独習者のために

---

仕事や住まいの関係で学校に通えない人も多いでしょう。軽いノリでおしゃべりやQ&Aも楽しみながらフランス語をやってみようという人には、清岡智比古『フラ語』シリーズ(白水社)がおもしろいでしょう。

- 『フラ語入門、わかりやすいにもホドがある! (改訂版)』(CD付) (1680円)
- 『フラ語練習、楽しいだけじゃだめかしら?』(1575円)
- 『フラ語動詞、こんなにわかっていいかしら?』(1575円)
- 『フラ語ポキャブラ、単語王とおこがましい!』(1680円)
- 『フラ語デート会話、恋ってどんなものかしら?』(CD付) (1680円)

中・上級を目標に、さらに幅広く勉強したい人には『コレクション・フランス語』シリーズ(白水社、全8巻)を推薦します。全巻CD付ですので、耳の訓練もできます。

- 『コレクション・フランス語 1 入門』(2100円)
- 『2 初級』(2310円) / 『3 文法』(2205円) / 『4 話す』(2520円) / 『5 読む』(2730円) / 『6 聞く』(3570円) / 『7 書く』(2940円) / 『8 語彙』(3465円)

#### 5. あとは実践あるのみ

---

参考書選びがすんだら仕事にかかりましょう。言葉は教科書や参考書だけで学ぶものではありません。実際に使って試してみる必要があります。たとえば、

- フランス語で人と話してみる。
- フランス語のテレビ・ラジオニュース、スピーチ、朗読などを聞いてみる。
- フランス語の本、雑誌、新聞などを読んでみる / 訳してみる。
- フランス語で書いてみる。

私のホームページもご利用ください。GoogleでもYahooでも「戸口民也」で検索すればすぐに見つかります。辞書や参考書についてさらに詳しく知りたい人は「フランス語学習者のための参考図書」をどうぞ。「戸口おすすめサイト」を開けばフランス語音声やテキストにふれることができます。

「生の」音声や文章に数多く接してください。とくに「読む」ことが大切です。フランス語だけでなく日本語の本もぜひ読んでください。外国語であれ母語であれ、その人の言語能力は読書の量と質によって決まってくるからです。

Bon travail et bon courage !

(とぐち・たみや)